後輩たちへのエール！　その58

2022年4月1日

やりたいことをやれる大学生活

◇　今回は、市原奨太郎さん（教員、岐阜大学大学院出身）　からのメッセージです！

今回は、高校を卒業してからの大学生活について、私が学んだことを中心に書きます。

関高校を卒業して、早8年が経過した。大学へは、大学生、大学院生と6年間通ったので、濃厚な大学生活となった。久しぶりに大切に保管してある「進学のしおり　平成26年度」を引き出し、自分の合格体験記を読み返した。当時の壮絶な受験期、河合塾での実技対策、大変だったあの頃が、今でも鮮明に思い出せる。同時に、合格を噛みしめこれからの大学生活に夢と希望をもつ嬉しさも伝わってくる。高校生の皆さんも、大学で何をしようか、何ができるのかと、新しい環境への期待と不安があると思う。私は、今回の体験記を通じて、大学生活の面白さと、その魅力をお伝えできればと思っている。

◇　大学で培う専門性と本当にやりたかったこと

大学に進学して間もない頃は、落語サークルや卓球等、色々なことに手を出してみては模索したが、以前からずっとやりたかった美術にどっぷりと浸かるのがいいと考え、1本に絞って、美術の制作、主に「油絵の制作」をやりまくった。高校までは様々な勉学があり、なかなか二足のわらじではやれなかった「美術」に向き合うことが出来た。大学へ進学することのメリットの一つとして、高い専門性とやりたいことを追求する環境を得られる。制作や美術に関して理解を深めるほど、「いいね、いいね、どんどんやろう」と周りから激励の声が送られた。今振り返ってもかなり制作に前向きで、がんばろうという気運が流れていた時だったと思う。先輩方の何人かは、すでにオープンキャンパスで知り合っており、とても温かく迎え入れてくれた。先輩、後輩との縦のつながりも強く、飲み会や制作でもかわいがってもらえた。制作中には、チョコレートなどのお菓子を差し入れしてもらったり、絵のアドバイスをもらったりした。それがとても嬉しかったので、今度はそれを後輩へ向けて、同じように私もお菓子を振る舞った。とても恵まれた環境であった。

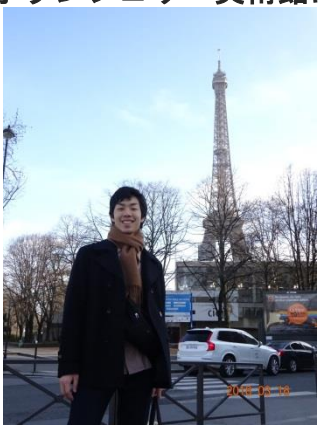
制作では、高校を卒業した時には、本当に、鉛筆と紙で、静物画、受験課題の人物画(自画像)を描くことしか知らなかった私であったが、大学では、かなりやさしく分かりやすく教えて頂いたので、学年が上がるにつれてできることも増え、徐々にステップアップしていくことを実感出来た。それまで使ったことのなかった木炭や油絵具、鑿(のみ)やチェンソーといった、様々な道具を駆使して制作できるようにもなった。それは、大学でお世話になったそれぞれ高い専門性をもつ絵画、デザイン、彫塑、工芸、美術史の先生方から知識を吸収できたおかげであった。今でもなお、その吸収を止めず、暇があっては先生方から教わった、膨大な知識を解読している。制作時間も、はじめ2時間くらいが限界だったが、3時間、6時間と集中力が持つようになった。一日中、休憩を挟みながらずっと絵を描

いていることが出来たし、夢中になって徹夜してしまうこともあった。卒業制作では、「わたしはここにおります」という題名で、家族を絵に登場させた(下図)。大きさがF150号(約2.2m×1.8m)あり、ほぼ等身大の大きさで描いた。風景画や静物画から始めた油絵制作だったが、この頃になると絵の中でしか描けない、創造性も重視するようになった。

◇　大学での時間の使い方

当然、制作や勉学だけでなく、旅行やお祭りなどのイベントも楽しんだ。まず、大学に入って驚いたことは、空き時間があることだ。講義は、朝の8：45から始まるが、空コマ(講義がない時間)は、本当に自由だ。午後からは、何もない、なんて日もある。どうしよう…とそれまでは、チャイムで始まりチャイムで終わる生活を経験してきた私にとっては、少し戸惑う所だった。しかし、予定を探せば、制作や課題、車校など結構やることがある。だから、高校までの規則性のある生活と違い、自分で時間をうまくマネジメントする必要性がでてくる。土日には、大学が開催する子ども造形ワークショップに参加していたので、それなりに予定が埋まり、気づけば忙しい日々になっていた。そんな忙しい日々にも、休息はある。夏休みだ。春休み、冬休みもあるが、夏休みほどではない。大学の夏休みは、なんと8月、9月と二ヶ月もある。二か月はとんでもない長期休暇だ。当然、何もしないと暇で死にそうになるため、旅行などの計画を立てる。だが、時間に余裕があっても旅行の資金繰りが厳しいのが大学生の実状だ。このバランスが難しい。しかし、少ない金銭をやりくりして旅をする面白さもある。

旅行では、東京、大阪、京都、和歌山、四国や鳥取、島根に行った。四国の瀬戸内海や、鳥取の気候風土はかなりはまった。当然お金はないので、最初はいいホテル(夕食付き)で、最後は駅近辺のビジネスホテル(カップラーメン)である。だがまた、そのやりくりが面白いのだ。学友との旅行は、旅行と言っても単なる旅行ではなくその地域の美術館巡りである。お目当ての美術館を決めておいて、旅の目的の半分はそれになる。もう半分は、自由だ。知らない海岸目指して、途方もなく歩き回ったり、電車、バスを乗り継いだりとかなり知らない地域を探索した。また、その土地で食べた美味しい料理もよい思い出だ。卒業旅行では、念願のフランスへ旅行した。久しぶりのフランスであったが、ほとんど変わっておらず、どんよりとした灰色の雲とエッフェル塔が出迎えてくれた。オルセー美術館や、ルーブル美術館に行けたのが良かった。今回は、有名どころばかり見て回ったが、今度行くときには、大学で学んだロダン美術館やギュスターヴ・モローの美術館、時間がなくて入れなかったオランジェリー美術館にいきたいなあ。



左図:「わたしはここにおります」 F150 号　油彩
中央:フランス、エッフェル塔にて　2018 年 3 月 18 日
右図:子ども造形ワークショップの様子　フィンガーペインティングで、ロール紙に絵を描く体験

◇　大学生からの一人暮らし生活のススメ

一人暮らしをするかどうかは悩むところだが、大学進学は一人暮らしをする機会でもある。私は、実家から通えなくもない距離だったが、一人暮らしをすることにした。理由は、一人になりたかったから。一人暮らしを始めてすぐ、一人で寝て起きるのは寂しいと感じた。そして、実家にいた時にはあまり感じなかった家族の温かみを再確認できた。まず、夕食。実家では、時間になるとすぐに出てくるのに、一人暮らしでは、当然自分で作るか、外食である。自分で作ってみるものの、お母さんが作るご飯には勝てないので、作って食べても美味しくない。当初は、カレーを作るのに２時間はかかった。であれば、外食やコンビニであるが、頻繁にいくとお金はかかるし、行くのが面倒な時もある。けれども、一人暮らしも3年目になると次第に商品の物価やスーパーの食材の良し悪しが見極められるようになり、料理も上手くなる。お米なんて炊いていなかったのに、お米を炊く幸せを感じるようになる。一人暮らしをしてよかったのは、社会人になって独立してからも、平然と家事をこなし要領よく生活できることである。今でも、お米は炊くし、カレーも30分あれば余裕で作れるようになった。また、学生食堂(学食)という手もある。教員採用試験の試験勉強期間にはよく利用して、図書館と学食を往復した。学食でも、温かいご飯が食べられ、健康を維持できる。かなり美味しいので最高である。なにより、皿を洗わなくていい！！大学の施設をうまく使って、制作、勉強、生活をうまくこなし学生生活を満喫しよう。

◇　院生への進学と卒業

大学を卒業してから、大学院へ進学した。大学院へ進学した目的は、絵画制作や研究論文をさらに深めたかったからだ。絵画制作では、より創造性を、研究論文では、実際に自分でワークショップを開催してみた。どちらも納得がいくまで追究できたと思っている。

院生ぐらいから、たびたび図書館を利用するようになった。それまで、私はあまり図書館とは縁のない人間だったが、じっくりと書物を読んだり、勉強をする中で、多くの知識を吸収できた。また、かなり静かな空間なので、本当にじっくりと試行錯誤が出来た。洋画家の「熊谷守一」に関する分厚い書物を読んで、独自に年表を作成したりとかなり楽しかった。また、他分野の興味深い一冊も見つけることが出来るため、興味のある本を借りては読める時間があることがかなり幸せだった。

時間があるということは、じっくり思考できるということである。本を読むことは社会人になってからでもできるが、忙しい日々で疲れてしまって、読みたくても読めずもどかしい気持ちになるので、ここでなるべく多くの知識と出会っておくこともおすすめする。いよいよ大学を卒業。6年間も大学にいるとかなり出るのが淋しい。それまでは、出たかったはずなのに、愛着を持っていたんだなと実感する。新たなステージとなった今でも、大学時代の思い出はかけがえのないものだし、今の生活にも直結している。出来ればこれからも、大学と交流が出来ればと思っている。

◇　おわりに

今回は、主にこれから大学生活を志す関校生の皆さんへ、エールとして大学生活の体験談について書かせてもらいました。話すと長くなるエピソードばかりですが、それだけ大

学での出会い、思い出、蓄積は人生を豊かにするものだと思います。みなさんが、充実した大学生活(キャンパスライフ)を過ごし、人生をより豊かにすることを願ってやみません。

謝辞

昨年、私ごとですが結婚をしました。結婚式には、高校で大変お世話になった美術の矢野先生も出席してくださいました。矢野先生とは、高校を卒業してからも交流して頂き、何度か大学生活で行き詰った時や、展覧会を見に来て頂いては私の成長を見守ってくださいました。矢野先生をはじめ、多くの先生方に見守られた大学生活でもありました。進学した先が岐阜大学であったことも、多くの先生方と交流を継続することが出来、良かったことだと思っています。また、高校まで担任して頂いた先生方にも、展覧会を見に来て激励の言葉を頂きました。いつも、支えて頂きありがとうございます。これからも、がんばります。